

A 概 要

1. 沿革

1950（昭25）

北海道立農業試験場が誕生した。（11月）

・全国農業試験研究機関の整備総合計画に基づき、北海道農業試験場を改組し、農水省北海道農業試験場と北海道立農業試験場が設置された。いずれも、北海道の開拓とともに進められてきた農業試験研究の歴史と成果を引き継ぐものである。

・道立農業試験場は、札幌市琴似町に「本場」をおき、渡島、上川、十勝、北見、根室、天北の6支場と原原種農場により構成された。

1952（昭27）

・宗谷支場、岩宇園芸試験地を設置した。また同年、岩見沢試験地（旧岩見沢水稲試験地）を設置し、1955年に空知支場と改称された。

1962（昭37）

・江部乙りんご試験圃場（旧空知果樹園芸試験地）が道立農業試験場に移管された。

1964（昭39）

中央農業試験場が発足した。（11月）

・北海道立農業試験場の拡充強化を図るため組織改正が行われた。

・「本場」は、中央農業試験場として9部構成に機構整備された。これにより空知支場は同稲作部となり、江部乙りんご試験地、岩宇園芸試験地を統合した。また、原原種農場は中央農業試験場に附置されることとなった。更に試験場の役割についても整理され、中央農業試験場には、道農政との有機的な連携の保持と農業技術開発の全道的な総括並びに各試験場間の連絡調整業務が盛り込まれた。

・同時に各支場は会計部局として独立し、本場・支場の関係が改正された。また、1962年新得・滝川両種畜場が両畜産試験場に改組され、この年主管課が農務部畜産課から同農業改良課に替ることにより、原原種農場も数えて道立農業試験場の10場体制が整った。

・一方、農水省北海道農業試験場との分担関係も整理され、それまで国立農業試験場長が道立農業試験場長を兼任していたのが解かれた。

1966（昭41）

中央農業試験場が長沼町に移転した。

・琴似町に所存する試験圃場周辺の都市化が進み、環境が試験研究に適さなくなった。そのため1964年7月移転先を現在地の長沼町東6線北15号に決定、翌1965年移転工事に

着手した。1966年に移転業務が完了し、1967年10月移転整備完了祝賀会が催された。

1968（昭43）

技術連絡室を設置した。（4月）

・道立農業試験場における試験研究の企画及び連絡調整機能を強化するため、中央農業試験場総務部企画課を改組して技術連絡室を設置した。

1969（昭44）

専門技術員を試験場に配置した。（4月）

・普及事業と試験研究との連携強化のために、専門技術員が中央・上川・十勝・北見各農業試験場に配置された。

以後、道南・根釧・天北農業試験場及び稲作部に逐次配置された。

1971（昭46）

岩宇園芸試験場が廃止された。

1975（昭50）

環境保全部を設置した。（5月）

・前年化学部に新設された環境保全部を改組し、環境保全第一科・同二科をもって環境保全部とした。

1986（昭61）

・江部乙りんご試験地が廃止された。（3月）

植物遺伝資源センターが設置された。（4月）

・原原種農場が植物遺伝資源センターに改組・改称され、従来の原原種生産事業とあわせて、植物遺伝資源に関する研究の中核機関として位置づけられた。

・土木研究室を設置した。（4月）

1987（昭62）

生物工学部を設置した。（4月）

・バイオテクノロジーの進歩により、その先端技術を積極的に取り入れるため、1984年技術連絡室に設置されたバイオテクノロジー研究チームを発展的に改組し、育種開発科、微生物開発科をもって生物工学部とした。

・同時にそれまでの化学部は農芸化学部に、環境保全部は環境資源部に、園芸部花きそ菜科を野菜花き第一、第二の2科とし、最近の新しい研究ニーズに応える体制にした。また、技術連絡室は企画情報室に改組し、従来の2係を企画課と情報課に再編した。

1991 (平 3)

道立農業試験場基本計画が策定された。(2月)

- ・この計画は、北海道新長期計画がめざす「国際化時代に生きる力強い農業」の中で示されている「地域農業ガイドポスト」を試験研究のサイドから支えるものとして策定された。
- ・北海道病害虫防除所の設置(中央農業試験場内)により、病虫部発生予察科の業務を移管した。

1992 (平 4)

「基本計画」に基づいた組織改編が行われた。(4月)

- ・当面急がれる園芸研究の強化やクリーン農業などを推進するため、組織改編をした。
- ・研究部門では、化学部門は環境化学部と農産化学部に編成替えを行い、園芸部は果樹科、野菜花き科をそれぞれ第一、二科の4科に、経営部は流通経済科を新設して2科に、また、病虫部は土壌微生物科を新たに加えた3科にいずれも拡充強化された。
- ・農業土木研究室は生産基盤科、農村環境科の2科に拡充し、農業土木部とした。
- ・企画情報室には調整課を新設し、試験研究の総合企画調整機能の強化が図られた。

中央農業技術情報センターを新設した。(4月)

- ・1986年以降5年間をかけて整備してきた北海道農業試験研究情報システム(通称HARIS)の本格的な稼働に伴い、各種情報システムの管理運営主体として設置された。この情報センターは、研究情報班(企画情報室情報課職員)及び普及情報班(情報担当専門技術員)からなる機能的組織として構成された。

1993 (平 5)

仮称「花き・野菜技術センター」の基本設計が完成した。(11月)

- ・花き・野菜に関する試験研究の中核的、先導的役割と成果の効果的な伝達並びに活用を目的に設置されることとなった。滝川畜産試験場の敷地内に建設され、その土地基盤及び施設関係の基本的設計が完成した。

1994 (平 6)

畜産部が廃止された。(4月)

- ・畜産部門の再編により、畜産部畜産科を新得畜産試験場に移管し、部長に代わって研究参事を設置した。

1996 (平 8)

花・野菜技術センターが設置された。(4月)

- ・花・野菜技術センターが設置されたことにより園芸部は果樹部となり、野菜花き第一・二科の廃止により2科体制となる。稲作部の専門技術員は、本場へ集中された。

1998 (平 10)

道立農業試験場新研究基本計画が策定された。(3月)

- ・この計画は、農業技術の開発と普及によって農業・農村の活性化に貢献することを基本理念とし、長期的展望に立った試験研究の基本方向を示し、もって21世紀における北海道農業の発展に資することを目的として策定された。

2000 (平 12)

「新研究基本計画」に基づいた道立農業試験場機構改正が行われた。(4月)

- ・多様化する研究ニーズに対応するため、研究部・科を再編統合した。
- ・研究10部を作物開発部、生産システム部、クリーン農業部、農業環境部、農産工学部の5部に再編した。
- ・研究部門と普及部門の連携強化を図り、地域課題への対応や新技術の普及定着を促進するため、技術普及部を設置した。
- ・企画調整や技術情報発信機能などの強化を図るため、企画情報室と技術普及部とで構成する企画情報技術センターを設置した。

2004 (平 16)

- ・「米政策改革大綱」を踏まえ、研究開発を一元的かつ総合的に進める体制を整備し、地域水田農業の発展を技術的に支援するため、水田農業科を設置した。

- ・病害虫防除業務の一元的な組織管理により、一層効率的な運営を図るため、病害虫防除所と中央農業試験場を統合した。

- ・試験研究の重点化や効率化の一層の推進を図るため、研究基本計画の見直しを専掌する研究参事が企画情報室に配置された。

2006 (平 18)

「新研究基本計画」に基づいた道立農業試験場機構改正が行われた。(4月)

- ・社会情勢の変化に対応するため、道立農試10場体制のうち、天北農試が上川農試天北支場に、植物遺伝資源センターが中央農試遺伝資源部となり、8場+1支場体制にした。

- ・研究部の一部を見直しするとともに、全道対応する環境保全部、基盤研究部、遺伝資源部、地域対応する作物研究部、生産研究部、生産環境部に再編した。

2010 (平22)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構が創設された。(4月)

- ・各分野の道立試が果たしてきた機能の維持及び向上を

図り情勢変化に柔軟に対応できる組織へと改革していくため、22の道立試が単一の地方独立行政法人化し北海道立総合研究機構が創設された。

・独法化に伴い、新たに農業研究本部が創設され、部においても8部1室制から7部制に再編され、科・係体制からグループ制へと移行した。

2017（平29）

加工利用部を設置した。（4月）

・加工利用部を設置し、8部制となった。

2. 位置

夕張郡長沼町東6線北15号

北緯43° 03′ 東経141° 46′ 標高23～24m

長沼町市街より北方約8.5km、JR室蘭本線栗山駅

西南約3km 札幌市より約40km

（遺伝資源部）

滝川市南滝の川363番地

北緯43° 34′ 東経141° 56′ 標高53～54m

JR函館本線滝川駅北東5.5km

（岩見沢試験地）

岩見沢市上幌向町217番地

北緯43° 10′ 東経141° 42′ 標高12m

JR函館本線上幌向駅南方300m

3. 土 壤

本場は、夕張川流域に分布する平坦な沖積土と馬追山麓端の暖傾斜を呈する洪積土及び扇状土からなっている。台地は樽前山系火山灰が推積している。平坦部の沖積土の表層は腐植の含量が少なく、粘土の強い埴土及び植壤土、一部には砂壤土ないし砂土となるところも存在する。

遺伝資源部は、第4記層に属する洪積土、表土は埴壤土で粘性に富み、酸性が強い。下層土は重粘土で緻密な構造を有し、酸性が強く、未風化で、気水の透通性は極めて不良である。

生産研究部水田農業グループは、幾春別川に由来する沖積の埴土と低位泥炭土からなり、いずれも強グライをする土壌で、潜在地力は極めて高い。

4. 面積及び利用区分

（単位：㎡）

区 分	総面積	法人有地	水 田	畑	果樹園
本 場	637,477	636,526	0	390,257	123,942
遺伝資源部	245,764	245,764	21,700	130,592	0
岩見沢試験地	214,044	214,044	176,657	0	0
合 計	1,097,285	1,096,334	194,984	524,222	123,942

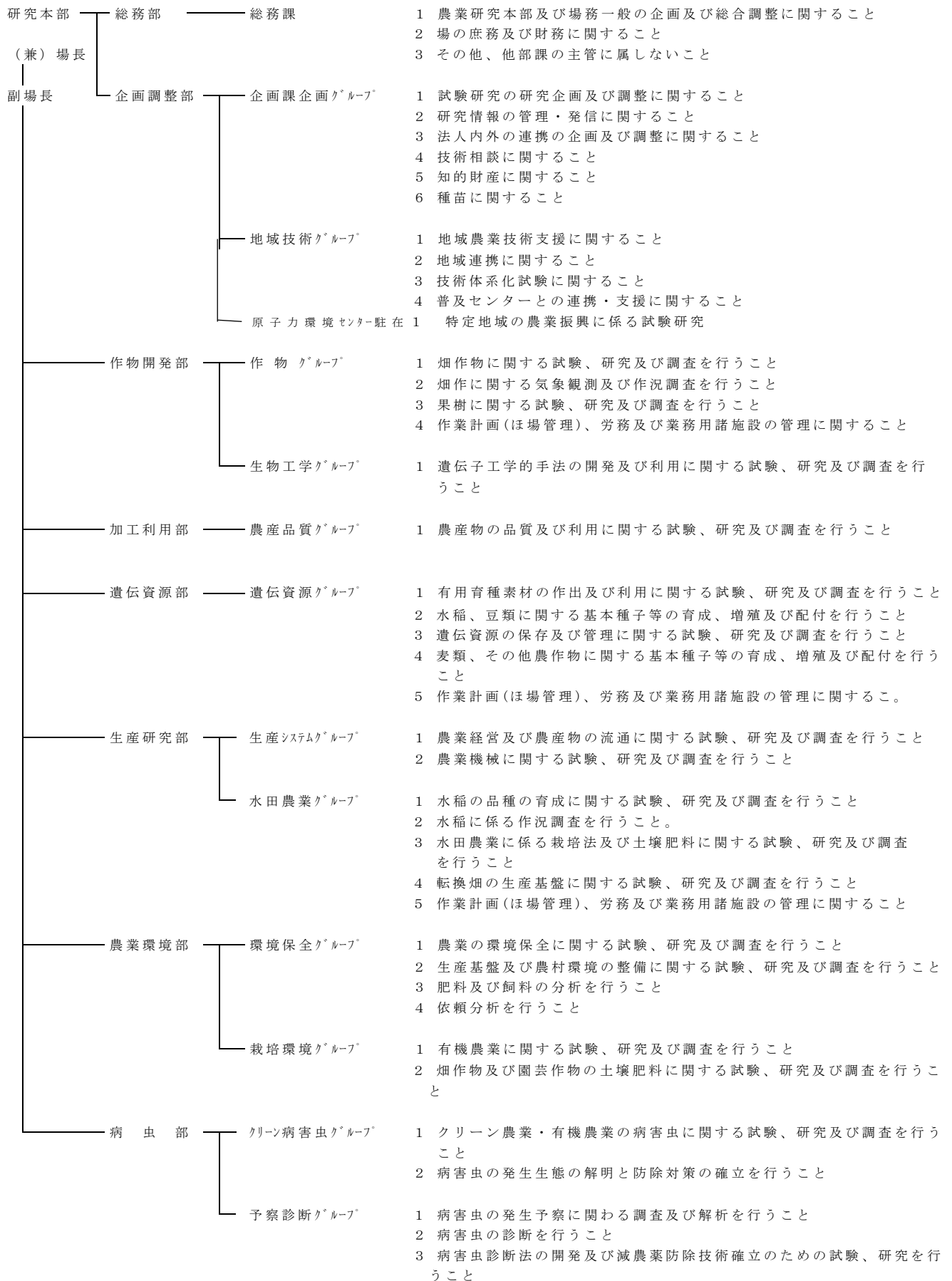
区 分	雑種地	原 野	建物敷地	防風林	借 地
本 場	4,865	20,130	97,199	133	951
遺伝資源部	24,040	34,123	35,309	0	0
岩見沢試験地	0	0	37,387	0	0
合 計	28,905	54,253	169,895	133	951

5. 職員の配置

令和2年3月31日

区 分	研究職*	支援職員	道派遣	計
	86	9	16	111
うち再雇用者	4	3	3	10

6. 機構



7. 現 在 員

1) 現在員(令和2年3月31日)

職 名	氏 名	職 名	氏 名
農業研究本部長兼場長	竹 内 徹	専門主任	山 保 政 貴
参与兼副場長	橋 本 真 明	専門主任	千 葉 守
総務部長	松 本 浩 二	主任	高 橋 直 哉
総務課長	塚 越 昌 代	研究主幹 ～生物工学グループ	鈴 木 孝 子
主査(総務)(再任用)	宇 野 和 敏	主査(生物工学)	相 馬 ちひろ
主査(調整)	本 城 亨 司	研究主任	山 下 陽 子
主査(管財)	瀧 見 雅	研究職員	堀 川 謙 太 郎
主査(研究調整)	星 直 樹	研究職員	道 満 剛 平
主査(遺伝資源)(再任用)	加 藤 武 博	研究職員	丸 田 泰 史
専門主任	上 杉 充 浩	加工利用部長	田 村 吉 史
専門主任	久保田 勝	研究主幹 ～農産品質グループ	小宮山 誠 一
主事	中 田 未 希	主査(農産品質)	中 道 浩 司
主事	高 田 知 里	研究主任査	佐々木 亮
企画調整部長	中 辻 敏 朗	研究職員	佐 藤 恵 理
企画課長	吉 村 康 弘	研究職員	竹 内 薫
主幹兼主査(情報調整)	太 田 訓 英	遺伝資源部長	田 中 義 則
主査(研究企画)	小 松 勉	研究主幹 ～遺伝資源グループ	鈴 木 和 織
主査(研究評価)	岩 上 弦 太 郎	主任主査(資源管理)	千 田 圭 一
主査(研究情報)	山 崎 敬 之	研究主査	吉 村 徹
主査(研究予算)(再任用)	野 尻 正 彦	研究主査	平 井 泰
主査(整備)	齊 藤 美 紀 子	研究主任	梶 田 路 津 子
研究主任	大 越 安 吾	専門主任	佐 藤 仁
主任	山 田 尚 子	専門主任	六 田 靖 男
専門研究員(再雇用)	高 橋 雅 信	専門主任	高 橋 光 司
研究主幹 ～地域技術グループ	黒 島 学	専門主任	川 本 康 内
主任主査(地域連携)	平 山 裕 治	生産研究部長	梶 山 努
主任主査(地域支援)	稲 野 一 郎	研究主幹 ～生産システムグループ	木 村 義 彰
主査(地域支援)	内 田 哲 嗣	主査(経営)	白 井 康 裕
研究主幹 ～原子力環境センター駐在	林 哲 央	主査(機械)	吉 田 邦 彦
主査	菅 原 章 人	研究主査	石 井 耕 太
主査	富 沢 ゆい子	研究主任	山 田 洋 文
作物開発部長	島 田 尚 典	研究職員	小野島 晴 子
研究主幹 ～作物グループ	稲 川 裕	研究職員	松 本 匡 祐
主査(調整)	井 上 哲 也	研究主幹 ～水田農業グループ	後 藤 英 次
主査(畑作)	黒 崎 英 樹	主査(水稻育種)	西 村 努
主査(果樹)	吉 田 昌 幸	主査(水田環境)	大 橋 優 二
研究主任	佐 藤 三 佳 子	研究主任	佐々木 亮
研究主任	池 永 充 伸	研究主任	佐 藤 博 一
研究職員	平 間 琢 也	研究主任	長 田 亨
専門研究員(再雇用)	前 野 眞 司	研究職員	佐 藤 圭

職名	氏名	職名	氏名
研究職員	小杉重順	専門研究員（再雇用）	玉掛秀人
専門研究員（再雇用）	寺見裕	病虫部長	堀田治邦
専門主任	石井伸也	研究主幹 ～クリーン病害虫グループ	相馬潤
技師	岩崎麻美	主査（クリーン農業）	西脇由恵
技師	佐藤隼太	主査（病害虫管理）	小澤徹
農業環境部長	中本洋	研究主査	橋本直樹
研究主幹 ～環境保全グループ	中村隆一	研究主任	野津あゆみ
主査（環境保全）	塚本康貴	研究主任	齊藤美樹
研究主任	須田達也	研究職員	丸山麻理弥
研究主任	藤井はるか	研究主幹 ～予察診断グループ	岩崎暁生
研究主任	巽和也	主査（予察）	山名利一
研究職員	藤田一輝	研究主任	武澤友二
研究主幹 ～栽培環境グループ	谷藤健	研究職員	荻野瑠衣
主査（土壌生態）	櫻井道彦	研究職員	森万菜実
研究主査	鈴木慶次郎	研究職員	下間悠士
研究主任	杉山裕		
研究主任	杉川陽一		

2) 転入者及び採用者

職 名	氏 名	発令年月日	備 考
総務部主査	宇 野 和 敏	H31. 4. 1	オホーツク総合振興局
総務部主査	加 藤 武 博	〃	空知総合振興局
総務部主事	中 田 未 希	〃	オホーツク総合振興局
総務部主事	高 田 知 里	〃	留萌振興局
総務部主事	吉 田 茜	〃	石狩振興局
企画調整部長	中 辻 敏 朗	〃	北見農業試験場
企画調整部研究主幹	黒 島 学	〃	花・野菜技術センター
企画調整部研究主幹	林 哲 央	〃	原子力環境センター
企画調整部主査	山 崎 敬 之	〃	法人本部
企画調整部主査	野 尻 正 彦	〃	農政部農村計画課
企画調整部主査	平 山 裕 治	〃	上川農業試験場
作物開発部専門主任	高 橋 直 哉	〃	十勝農業試験場
作物開発部研究職員	道 満 剛 平	〃	上川農業試験場
遺伝資源部専門主任	川 本 康 内	〃	畜産試験場
生産研究部研究職員	小野島 晴 子	〃	新規採用
生産研究部研究主幹	後 藤 英 次	〃	花・野菜技術センター
生産研究部技師	佐 藤 隼 太	〃	上川農業試験場
生産研究部研究職員	小 杉 重 順	〃	新規採用
農業環境部研究主任	杉 山 裕	〃	北見農業試験場
農業環境部研究職員	藤 田 一 輝	〃	新規採用
病虫部研究職員	下 間 悠 士	〃	新規採用
総務課長	塚 越 昌 代	R1. 6. 1	農政部農業経営課
総務部主査	本 城 亨 司	〃	オホーツク総合振興局
企画調整部主査	齊 藤 美紀子	〃	石狩振興局

3) 転出者及び退職者

職 名	氏 名	発令年月日	備 考
総務部主査	瀧 下 佳 穂	H31. 4. 1	空知総合振興局
総務部主査	棟 方 寛 司	〃	総務部総務課
総務部専門主任	小 林 佐和子	〃	空知総合振興局
企画調整部長	安 積 大 治	〃	上川農業試験場
企画調整部研究主幹	五十嵐 俊 成	〃	北見農業試験場
企画調整部主査	内 藤 裕 之	〃	農政部農村計画課
生産研究部研究主幹	宗 形 信 也	〃	上川農業試験場
生産研究部研究主査	木 下 雅 文	〃	上川農業試験場
農業環境部研究主任	板 垣 英 祐	〃	酪農試験場
総務課長	斉 藤 修	R2. 6. 1	空知総合振興局
総務部主査	平 松 克 博	〃	胆振総合振興局
企画調整部主査	平 澤 尚 江	〃	農政部畜産振興課
総務部主事	吉 田 茜	R1. 10. 20	空知総合振興局
参与兼副場長	橋 本 真 明	R2. 3. 31	退職
総務部専門主任	上 杉 充 浩	〃	退職
企画調整部主任主査	稲 野 一 郎	〃	退職
作物開発部長	島 田 尚 典	〃	退職
作物開発部専門主任	山 保 政 貴	〃	退職
遺伝資源部研究主査	平 井 泰	〃	退職
遺伝資源部専門主任	高 橋 光 司	〃	退職

8. 収入決算額

(単位：円)

科 目	当初予算額	最終予算額	決算額	増 減
依頼試験手数料	3,014,000	3,014,000	1,868,650	▲ 1,145,350
施設等使用料	0	47,000	42,490	▲ 4,510
技術普及指導手数料	809,000	1,023,000	799,160	▲ 233,840
農産物売払収入	5,061,000	5,061,000	3,829,657	▲ 1,231,343
不用品売払収入	432,000	432,000	0	▲ 432,000
法人財産使用料等	3,181,000	3,181,000	1,082,309	▲ 2,098,691
その他雑収入	65,000	336,000	90,000	▲ 246,000
共同研究費負担金	1,300,000	1,600,000	1,600,000	0
国庫受託研究収入	17,741,000	19,438,000	19,437,200	▲ 800
道受託研究収入	21,832,000	34,123,000	34,022,322	▲ 100,678
その他受託研究収入	114,172,000	114,907,000	113,508,730	▲ 1,398,270
その他受託事業収入	0	153,000	153,320	▲ 680
科学研究費補助金収入	0	137,474	137,474	0
計	167,607,000	183,452,474	176,571,312	▲ 6,892,162

9. 支出決算額

(単位：円)

科 目	当初予算額	最終予算額	決算額	繰越額	残 額
戦略研究費	7,638,471	7,638,471	7,638,471	0	0
重点研究費	3,375,806	3,375,806	2,948,049	427,757	0
職員研究奨励費	2,060,000	2,060,000	1,930,777	0	129,223
経常研究費	40,688,000	41,031,000	40,625,045	0	405,955
研究開発推進費	0	11,000	11,000	0	0
依頼試験費	1,529,000	1,502,047	707,136	0	794,911
技術普及指導費	442,000	1,531,160	1,474,390	0	56,770
研究用備品整備費	0	13,371,490	13,371,490	0	0
研究用備品整備費（積立金）	0	29,794,800	29,114,800	0	680,000
維持管理経費（研究）	725,000	725,000	725,000	0	0
維持管理経費（一般）	102,616,000	121,632,000	121,184,184	0	447,816
研究関連維持管理経費	0	239,000	239,000	0	0
知的財産経費	2,049,000	1,300,000	1,300,000	0	0
運営経費	91,642,000	89,461,949	87,399,963	0	2,061,986
運営経費（目的積立金）	0	594,000	424,084	0	169,916
共同研究費	1,300,000	1,600,000	1,600,000	0	0
国庫受託研究費	17,741,000	19,438,000	19,437,200	0	800
道受託研究費	21,832,000	34,123,000	34,022,322	0	100,678
その他受託研究費（公募型）	42,854,000	50,152,290	48,736,446	0	1,415,844
その他受託研究費（受託）	64,175,000	57,867,000	57,855,823	0	11,177
その他受託事業費	0	99,000	97,820	0	1,180
施設整備費（繰越積立金）	0	94,782,000	94,781,600	0	400
科学研究費補助金	0	137,474	50,252	87,222	0
計	398,224,477	572,466,487	565,674,852	514,979	6,276,656

10. 新たに設置した主要施設及び備品

1) 施設

水質汚濁防止処理施設（屋根改修）	工事費	9,147,600	円
ガラス温室改築・改修・解体	工事費	82,610,000	円

2) 備品（1件100万円以上）

（単位：円）

名 称	規格	数量	金額	配置
土壌 PF 測定器	大起理化工業(株)	1	2,293,500	環境保全 G
電位差自動滴定装置	京都電子工業(株)	1	2,090,000	作物 G
多検体細胞粉碎装置	(株)バイオメディカルサイエンス	1	2,678,390	予察診断 G
テクスチャーアナライザー	Stable Micro Systems 社	1	4,395,600	農産品質 G
クロロマニアスプレッタ	(株)IHI アグリテック	1	1,210,000	水田農業 G
ホイールローダ	コマツ	1	15,620,000	水田農業 G
トラクター	ヤンマーYT5113A	1	10,123,300	遺伝資源 G
ブームスプレイヤー	丸山 BSM-1370LT-HD	1	3,371,500	遺伝資源 G